

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲口 乙口 口修	第 388 号	氏名	梶浦 由加里
審査委員	主査 吉本 勝彦 副査 東 雅之 副査 松尾 敬志			

題目 Glycated Albumin and Calprotectin Levels in Gingival Crevicular Fluid
From Patients With Periodontitis and Type 2 Diabetes

(歯周炎と2型糖尿病患者の歯肉溝滲出液中グリコアルブミン
およびカルプロテクチンレベルの研究)

要旨

糖尿病患者では歯周炎の罹患率が高く、重症化しやすいことが知られている。近年、糖尿病患者における歯周炎は糖尿病関連歯周炎と呼ばれるようになり、一般の慢性歯周炎よりも激しい炎症や著しい組織破壊を示すことが特徴である。歯科の臨床現場において糖尿病関連歯周炎を的確に診断することは、歯周炎と糖尿病の早期発見および早期治療に貢献すると考えられる。

本論文は、糖尿病関連歯周炎の診断に、歯肉溝滲出液中のグリコアルブミンとカルプロテクチンの定量が有用であるかどうかを調べた臨床研究である。研究に際しては、徳島大学病院臨床研究倫理審査委員会の承認を得て行われ、被験者からは文書による同意を得た。被験者は、健常者 (H群)、歯周炎患者 (P群)、糖尿病非歯周炎患者 (DM群)、糖尿病関連歯周炎患者 (DM-P群) の4群に分けられた。各群の被験者から採取した歯肉溝滲出液をELISAキットで分析した結果、グリコアルブミンはDM群とDM-P群で高値を示し、カルプロテクチンはP群とDM-P群で高値を示すことが見出された。また、歯肉溝滲出液中のグリコアルブミンレベルは血液HbA1cレベルおよび血清グリコアルブミンレベルと正の相関関係が認められた。また、歯肉溝滲出液中グリコアルブミンレベルの糖尿病予測に関するROC解析において、感度と特異度は高い値を示した。以上の結果より、グリコアルブミンの歯肉溝滲出液レベルの測定は、カルプロテクチンのレベルと併せて評価することで糖尿病関連歯周炎の診断に有用であることが本論文から明らかにされた。

本論文は、歯肉溝滲出液中のグリコアルブミンの存在を初めて見出すとともに、この分子を定量することで糖尿病関連歯周炎の診断法に一定の方向性を示すことができた点で、歯科医学の発展に寄与するところが多大であると考えられた。

よって、博士 (歯学) の学位授与に値すると判定した。